

# 「農業農村工学会誌」原稿執筆の手引き (兼/出力原稿用テンプレート)

Instructions-to-the-Authors cum Template for Electric Version of the Manuscripts

農業耕作\*  
(NOGYO Kosaku)

農村守\*\*  
(NOSON Mamoru)

## I. はじめに

学会誌企画・編集委員会は、本学会誌ができるだけ多くの会員に読まれ、親しまれるように心がけています。原稿執筆に当たっては、農業農村工学会誌投稿要5項（以下、「投稿要項」という）によるほか、この原稿執筆の手引き（以下、「手引き」という）に従って40  
ください。原稿の体裁、記号の使い方、式の書き方、図表の作成方法などの取決めは、編集事務を簡素化して、掲載を速やかにするためにも必要です。このため、執筆前にこの手引きを読むようにしてください。10

なお、投稿は、プリンタ出力原稿（Microsoft Word 45  
などの文書作成ソフトにより作成した原稿）とします。

## II. 投稿原稿の内容・長さなど

### 15 1. 原稿の内容

原稿の内容は、下記のものほか、投稿要項に則つたものとし50  
ます。

(1) 学術・技術リポート 農業農村工学の学術ならびに技術の向上に資するもので、会員の多数を占め20  
る技術者にとってとくに有益とみなされるもの。

(2) コミュニティ・サロン 広く農業農村工学に55  
関連して会員の参考になるとみなされるもの。

### 2. 原稿の長さ

1 編の長さは、原則として投稿要項の「学会誌の掲25  
載区分」の規定ページ以内に限ります。公募・自主投稿原稿は4ページを規定とし、6ページを限度としま50  
す。4ページを超過する原稿は、原則として原稿の削除を求めますが、削除できない場合、超過ページ分は著者負担（実費）とします。

30 なお、規定ページとは、表題、本文、図、表、式、写真、引用文献（または、参考文献）などを含めた刷り上がりページ数を指します。

### 3. 重複投稿

同一著者が、ほぼ同じ内容をすでに他誌に発表（投

35稿中も含む）している場合は、その旨を本文の最初に明記してください。

## III. 出力原稿での投稿方法

学会誌への投稿手順は以下によります。

① 出力原稿（片面印刷）正1部（投稿票、内容紹介、本文（図・表・式・写真・引用文献・著者顔写真・略歴を含む）とそのコピー2部の計3部を学会誌企画・編集委員会へ投稿します。

② 閲読をすべて完了し、掲載可となった最終原稿については、所要のファイル（投稿票ファイル、内容紹介ファイル、本文ファイル）を学会事務局宛に電子メールで送付するとともに、そのプリンタ出力原稿1部を学会誌企画・編集委員会宛に郵送します。

## IV. 原稿の書き方に関する注意

### 1. 原稿執筆に当たっての留意事項

原稿執筆に当たっては、以下の事項に留意してください。50

① 出力原稿は、この手引きのファイルをテンプレートとして、二段組みで作成します。Wordの出力原稿用テンプレートファイル（「本文ファイル」テンプレート）は、下記の学会ホームページからダウンロードできます。

<http://www.jsidre.or.jp/journal/>

Word以外の文書作成ソフトを使用する場合は手引きを参考にして、1行全角24文字、1ページ47行の二段組みとして作成します。

② 投稿原稿は和文に限ります（図表中の文字を含む）。外国の地名などもできるだけカナ表記にします。

③ 表題は、原稿の内容を正しく表現できるように、27文字以内で簡潔に付けることとし、副題は付けません（ただし、依頼原稿はその限りではありません）。

\* 第一著者所属

\*\* 第二著者所属

キーワード 農業農村工学会、報文、原稿執筆、出力原稿、投稿票、内容紹介、テンプレート

④ 原稿執筆に際しては、章・節・項の見出しを下記のようにします。

章：Ⅰ. Ⅱ. Ⅲ. …

節：1. 2. 3. …

5 項：(1) (2) (3)…

⑤ 仮名づかいは、現代仮名づかいとします。

⑥ 術語は、農業土木標準用語事典に準じます。

⑦ 数字は、アラビア数字を用い、3桁ごとにカンマを入れます。

10 ⑧ 数式などの変数記号にはイタリック体フォントを使用し、下付きと上付き、単位などの区別を明確にします。

⑨ 数表とそれをグラフにしたものとの併載は避け、どちらか一方にします。また、写真の使用は必要最小限にとどめます。

15 ⑩ 地名、人名、そのほかで特別の読み方をするものにはフリガナを付けます。

⑪ 注書きは脚注とし、本文該当箇所右上に<sup>注1)</sup>、<sup>注2)</sup>…のように注記符号を記し、各ページの最  
20 下段に簡素・明瞭な文章（7ポイント）で記載します。

## 2. 図・表・写真

図・表・写真は、幅を80mm以下に調整し本文中の所定箇所に、本文との間を1行程度空けて配置しま  
25 す。幅が80mmを超えるものは、各ページの上端か下端の中央に配置します。なお、図表の横に本文を配置することはしません。

図は、白黒で描画し、本文中で解像度が300dpi以上となるよう調整し、貼り付けます。

30 写真は、ドキュメントサイズの幅を80mm以下、解像度を300dpiに設定してリサイズします。カラー写真は、イメージモードをグレースケール（白黒モード）に変換してください。

鮮明な画像とするため、図や写真は本文ファイルに  
35 貼り付ける前のデータを別ファイルで添付することを推奨します。

図・表・写真には、**図-1**、**表-1**、**写真-1**のように一連の番号と簡潔な標題を付けます。番号・標題は、  
図・写真の下、表の上に配置し、8ポイントで記載し  
40 ます。

図・表・写真中の文字は事務局でフォント（明朝体）、文字サイズ（図・写真中は7ポイントを基本とし、表中はすべて7ポイント）を統一します。写真の中に文字を焼き込む場合は、文字なしの写真も添付し  
45 てください。

## 3. 引用文献

引用文献の記載は、本文中に引用したもののみにと

表-1 表の見本（CPD機構のあゆみより）

年	活 動
平成11年	「JABEE」設立（11月）
平成12年	「技術士法」改正（4月） APEC Eng 登録開始（11月）
平成14年	「農業土木技術者継続教育機構」設立（1月） 「建設系CPD協議会」に参画（8月）
平成17年	学会誌上で通信教育試行開始（10月）
平成18年	通信教育本格運用（11月）
平成19年	学会名称を「農業農村工学会」に改称（6月） 年間上限値一部見直し（8月）
平成20年	「技術者継続教育機構」に名称変更（3月） 学会事務局に「継続教育部」を設置（4月）
平成24年	Webシステムによる随時申請方式導入（2月） 「農業農村工学会技術者継続教育機構」に改称（4月）

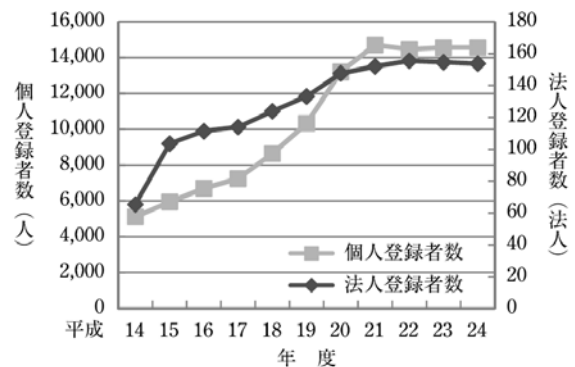


図-1 図の見本（CPD個人・法人登録者数の推移より）

どめ、本文中の該当箇所にその出現順に<sup>1)</sup>、<sup>2)</sup>…のように上付き文字で文献番号をふり、文末にもその順番  
50 に並べて記載します。文末の文献一覧では、文献番号、著者名、論文名、掲載誌・巻号、ページ（複数ページにわたる場合はpp.##~##、単一ページの場合はp.##、単行本全体の場合は##p.）、発行年の順に記載します。

## 55 V. 投稿時の提出物

投稿の際には、以下のような内容を含んだ「投稿票ファイル」、「内容紹介ファイル」、「本文ファイル」を作成し、そのプリンタ出力原稿をⅢ.①に従って学会誌企画・編集委員会宛に提出します。掲載可となった  
60 最終原稿の各ファイルには内容の確認ができるファイル名を付けてください。

「投稿票」、「内容紹介」のテンプレートファイルについても「本文ファイル」と同様、下記学会ホームページからダウンロードできます。

65 <http://www.jsidre.or.jp/journal/>

### 1. 投稿票ファイル

「投稿票ファイル」には以下の事項を記載します。

- ① 和文表題（全角27文字以内、副題なし）
- ② 英文表題

- ③ 和文著者名
- ④ 英文著者名
- ⑤ 和文著者所属
- ⑥ 会員番号 (会員のみ)
- 5 ⑦ CPD 個人登録者番号 (登録者のみ)
- ⑧ 和文キーワード (5~7 語)
- ⑨ 投稿分野 (投稿分野表による)
- ⑩ 連絡者名
- ⑪ 連絡者所属
- 10 ⑫ 連絡者住所・電話・FAX・E-mail アドレス
- ⑬ 別刷希望の有無
- ⑭ 別刷希望部数 (最低 30 部)
- ⑮ 別刷表紙希望の有無

## 2. 内容紹介ファイル

- 15 「内容紹介ファイル」は和文 300 文字程度で原稿内容を紹介します (ただし、全文を一つの段落で記載します)。

### 3. 本文ファイル

表題 (和文・英文)・著者名 (和文・英文)・図・20 表・式・写真・引用文献・著者顔写真・略歴を含む原稿全体のファイルを Word などの文書作成ソフトで作成します。

読作業の効率化を図るため、本文には 5 行ごとに行数を書き入れてください (手書きでも可)。

## 25 VI. 投稿原稿の取扱い

投稿された原稿は、事務局において受け付け、原稿の整理番号を通知します。

## VII. 著者校正

誤植防止のため、著者に校正刷りを送り、著者校正 30 を依頼します (電子メール)。

原則として、著者校正の際の原稿 (特に図面) の訂正には応じません。

校正刷りは、受領後原則 3 日以内に校正し、返送してください。

## 35 VIII. 別刷

希望者には、有料にて別刷を作成します。別刷申込み部数は最低 30 部とし、実費 2,490 円で受け付けます。ただし、30 部より多く必要な場合は、10 部当たり 830 円 (10 部単位) で作成します。また、希望者は 40 表紙 (表題と著者名入り) を 3,189 円で付けます。(価格はいずれも消費税 8% を含みます。)

## IX. 発行後の正誤訂正

学会誌発行後、著者から正誤訂正の申し出があった場合には、原稿と照合し、誤植訂正、著者訂正の別を 45 明らかにして、近刊号に正誤表を掲載します。

### 引用文献 (例)

- 1) 沢田敏男:「水土の知」の理念の実現, 水土の知 75(1), pp.1~2 (2007)
- 2) Akan, A.O.: Open Channel Hydraulics, Butterworth-Heinemann, 50 364p. (2006)
- 3) 農業農村工学会: 農業農村工学会誌投稿要項 (2007), <http://www.jsidre.or.jp/publ/jrnal/inst/toko.pdf> (参照 2015 年 9 月 25 日)

[20##. ##. ##. 受理]

### 略 歴

#### 農業 耕作 (正会員・CPD 個人登録者)

顔写真  
縦:23mm  
横:19mm

####年□□□□に生まれる  
####年□□□□卒業  
####年□□□□課  
現在に至る

#### 農村 守 (正会員)

顔写真  
縦:23mm  
横:19mm

####年□□□□に生まれる  
####年□□□□卒業  
####年□□□□課  
現在に至る